

鹿児島県屋久島でヤマトシロアリの巣から 採集されたアリヅカムシ

野村周平¹⁾・竹松葉子²⁾

¹⁾つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館動物研究部 E-mail: nomura@kahaku.go.jp

²⁾ 山口市吉田 1677-1 山口大学大学院創成科学研究科農学系学域

Collecting Records of Pselaphines from Termite Nest of *Reticulitermes speratus* in Yakushima Island, Kagoshima Prefecture, S Japan

Shûhei NOMURA and Yoko TAKEMATSU

緒論

アリの巣に居候する好蟻性のアリヅカムシは数多く知られているが、シロアリの巣に入るアリヅカムシは日本ではほとんど知られていない。丸山ほか著(2013)「アリの巣の生きもの図鑑」(東海大学出版会刊)では、八重山諸島に産するシロアリヒゲカタアリヅカムシ(学名未確定)が掲載されているのみである。第一筆者の野村はその他に、栃木県のヤマトシロアリの巣から発見された *Tribasodites* 属の1未記載種を確認している。

今回、筆者の一人、竹松が鹿児島県屋久島で、複数のヤマトシロアリの巣から採集されたアリヅカムシを野村が同定したところ、ムネトゲアリヅカムシ上族(*Batrisitae*)のニッポンムネトゲアリヅカムシ(*Batrisodellus nipponensis* (Raffray, 1909))であった。我が国における3種目の好白蟻性アリ

ヅカムシとなるので記録しておく。

材料と方法

以下に示すシロアリの巣から採集されたアリヅカムシは、すべて鹿児島県屋久島において竹松が採集したものである。ホストはすべてヤマトシロアリ *Reticulitermes speratus* (Kolbe, 1885) (ミゾガシラシロアリ科)であった。採集場所の詳細を以下に示すが、林班の番号とGPSデータだけでは具体的な場所がわからないので、GPSデータから野村が割り出した採集地点のおおよその位置をカッコ内に示す。

林班19 (N30.260220, E130.589567) (本富岳東千尋滝付近) 地点1コロニー2

林班26 (N30.293005, E130.412197) (大川の滝南方) 地点4コロニー1



図1. 屋久島でヤマトシロアリの巣から採集されたニッポンムネトゲアリヅカムシ(左:♂;右:♀)。

林班56 (N30.245281, E130.539346) (本富岳南西麓) 地点3コロニー1および3

調査結果と考察

上記の採集によって得られたアリヅカムシの種名と採集データを以下に示す。

ニッポンムネトゲアリヅカムシ *Batrisodellus nipponensis* (Raffray, 1909)

<採集データ> 4♂1♀, 林班 19, 19. vii. 2018; 1♂2♀, 林班 26, 20. vii. 2018; 1♂1♀, 林班 56, 20. vii. 2018.

<所見>本種は Raffray (1909) によって“Kioto”から記載された種であるが、本種を含む数種のタイプとなっている標本は、当時の昆虫商であった Donckier de Donceel から入手されたものであるらしく、この標本の由来には多少の疑問が持たれる。このいきさつについては野村 (2007) が解説した。これまでに本種は、本州、屋久島、口永良部島から記録されている (柴田ら, 2013) が、本州からの記録は、上記の Donckier 標本のみであり、この真偽については疑問が持たれる。

本種はムネトゲアリヅカムシとしては、中型、やや太めの種である。触角はやや短く、数珠玉状であるが、♂は先端節が膨大して基部に大きなカギ型突起をそなえる。これにより、同属他種から明確に区別することができる。また、雌雄ともに前胸背がやや側方へ突出するが、トゲ状になることはなく、この特徴によって屋久島に分布するド

ウボソムネトゲアリヅカムシ *Tribasodes longipes* (Raffray, 1909) などの *Tribasodes* 属群の種とも区別することができる。

本種は屋久島ではかなり普通に見られるもので、海岸近くから標高 1,500 m 近い山地に至る間の落葉土中から発見される。朽木中からも時折発見され、今回の記録も 1 例であれば朽木性の種が偶然に紛れ込んだ可能性を否定しきれない。しかし今回、複数の個体が、複数地点で、複数のシロアリの巣から得られているので、本種はヤマトシロアリの巣中に常在的に生息しているものと判断された。しかし、本種がヤマトシロアリと、物質の交換のような何らかの関係を持っていることは確認されていない。単にヤマトシロアリの作った孔道を生活空間として利用しているに過ぎないのかもしれない。このような点については、追加の情報が必要である。

引用文献

- Raffray A., 1909: Nouvelles espèces de psélaphides. Annales de la Société Entomologique de France, 78: 15-52.
丸山宗利・小松 貴・工藤誠也・島田 拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 東海大学出版会, 神奈川県秦野市, 208 pp.
野村周平, 2007. やっぱり気になる Donckier 標本の由来. ハネカクシ談話会ニュース, (31): 1-3.
柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録. 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69-218.

(2018年10月14日受領, 2018年12月12日受理)

【短報】伊良部島でサトユミアシゴミムシダマシを採集

サトユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes* (Marseul, 1876) は、本州・淡路島・四国・九州・壱岐・対馬・朝鮮半島・中国に分布するゴミムシダマシで、これまで沖縄方面からは記録がなかった。

筆者は、伊良部島において本種を採集したので、新分布地として報告



図1. 伊良部島産サトユミアシゴミムシダマシ.

する。

採集データ

1♀, 沖縄県宮古島市伊良部 (伊良部島), 12. VI.2018 (図1)

街灯を見回って夜間採集をしていたところ、駐車場の水銀灯に飛来したと思われる個体を採集した。分布が飛び離れていることや形態的に本土産と差異がないこと、採集地が集落内であることなどから国内外来の可能性も考えられる。

末文ながら、標本の同定とご意見を賜った秋田勝己氏に厚くお礼申し上げる。

(須田 亨 372-0006 伊勢崎市太田町 770-4)